

有明高専だより

第55号
有明工業高等専門学校
〒836・大牟田市萩尾町150
TEL 0944 53 1011
印刷・（株）延命プリント

第二十二回 入学式

式辞

施設と設備の充実

本校は昨年秋、後援会・同窓会・創立二十周年記念式典並に関連事業を行いましたが、これに至るまでの約五年間に、選択制講義棟・第一体育館・福利施設「修習館」などの新設のほか、また大学院をもつ技術科学大学などへも進学の道が開かれた学校であります。

高専制度は発足以来二十一年になりますが、近年、高専制度への

一流企業の評価が定着して参りましたことは、その求人倍率などから容易に理解できるところあります。

本校の卒業生三百六十九名の中にも、課長・係長など、企業の中堅技術者として、国内はもちろん

海外でも活躍する人が段々と増え

ました。

また国立高専五十四校の中で、

本年は十四高専に、中国・インド

ネシア・マレーシヤなどから四十

名の留学生を受入れています。

この実績は毎年増えてゆきますから

、諸君の在学中には本校にも留学生を受け入れることが予想されます。

多くの大学のようなマスクロ教

育でない少人数教育、さらに大学

卒と同等の基礎学力に加えて実験

実習を重んずる教育の三点であります。この教育によって、高専は、

多くの大学と異った資質をもつ「高度

の実践的技術者」を養成する高等

教育機関であり、スクールではなく

カレッジであります。

高専制度創設のころは、「高専は

中級の技術者の養成機関」である

ことでした。

しかし、時代とともに

変化する社会に対応するため

、高専制度もその使命を

果たすために、常に進歩を

めざしてきました。

今後も、ますます高専制度の

発展をめざしてまいります。

期待される技術者像

は、大学受験や偏差値教育に煩

わされない五年前の一貫教育、ま

た多くの大学のようなマスクロ教

育でない少人数教育、さらに大学

卒と同等の基礎学力に加えて実験

実習を重んずる教育の三点であります。この教育によって、高専は、

多くの大学と異なった資質をもつ「高度

の実践的技術者」を養成する高等

教育機関であり、スクールではなく

カレッジであります。

高専制度創設のころは、「高専は

中級の技術者の養成機関」である

ことでした。

しかし、時代とともに

変化する社会に対応するため

、高専制度もその使命を

果たすために、常に進歩を

めざしてきました。

今後も、ますます高専制度の

発展をめざしてまいります。

期待される技術者像

は、大学受験や偏差値教育に煩

わされない五年前の一貫教育、ま

た多くの大学のようなマスクロ教

育でない少人数教育、さらに大学

卒と同等の基礎学力に加えて実験

実習を重んずる教育の三点であります。この教育によって、高専は、

多くの大学と異なった資質をもつ「高度

の実践的技術者」を養成する高等

教育機関であり、スクールではなく

カレッジであります。

高専制度創設のころは、「高専は

中級の技術者の養成機関」である

ことでした。

しかし、時代とともに

変化する社会に対応するため

、高専制度もその使命を

果たすために、常に進歩を

めざしてきました。

今後も、ますます高専制度の

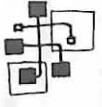
発展をめざしてまいります。

生活のリズム

吉村虎藏

昭和五十九年四月十日

有明工業高等専門学校長



有明高専だより

昭和59年5月25日

一月実施した。アンケート調査対象になつた学生は総合実習に参加した機械工学科、電気工学科、工業化学科の四年生以上の学生、建築学科の三年生以上の学生である。

このアンケートは学生が総合実習をどのように認識し、理解しているか、また、どんな実習を行い、その結果はいかがだったかについて明らかにする事を目的として実施したものである。

アンケートの主題は、次の六題。からなつてゐる。

- (1) 総合実習に対する認識度
- (2) 実習参加回数及びその方法
- (3) 実験実習状況
- (4) 実験実習時間及びその方法
- (5) 実習に対する基本的態度及び理解度
- (6) 総合実習による教育効果

各項目は更に一項目ないし六項目に分かれており、その設問の合計は二十二項目にわたるものである。

今回の調査は、対象学生三百十九名に対して実施し、その回収率は九十三・七%であった。

まず総合実習に対する認識度の調査であるが、「総合実習に参加して知った」とする解答が昨年度と同様、半數以上も占め、総合実習が実践的な教育であることを強く印象づけている。

次に「高専だよりを読んで知った」という学生が十二・六%と過去の統計上からみて最も高い値を示し、高専だよりが学生に対しても

高いP.R効果を持っていることを示している。

総合実習時間及び総合実習方法に関しては、「環境風洞」が二十六%、「総合実習施設」が十八・二%と高く、昨年度と同じ傾向を示している。これは昨年度同様からなつてゐる。

本年度も主としてこの二つを行つたので、そのことを反映しているものといえる。

実習目的のうちどれを重要と思ふかに対する回答は、「実習を通じて専門知識、技術を向上させる」と思

っている学生が二十七%と最多

で、次に多いのが「現状のままでよい」が二十一・一%と最も多く、四回前後二回で二%、八回前後四回で〇%と続

いている。また、五十回以上が二回で二%、八回前後四回で〇%と続

いていた。また、五回以上が二回で二%、八回前後四回で〇%と続

いていた。

教育であることを示している。

総合実習時間及び総合実習方法に関しては、実習時間に対しても、週に二回、三回四時間程度でよ

い」が一九・一%と最も多く、現

状のままでよいという意識がうか

がえる。また前年度までに比べ、「

実習時間が短いので、週一回全日

実習とするのがよい」とする回答

が多くなつており、学生の総合実習に対する意欲が増してきている。

総合実習への参加方法に関しては、「一定期間、同一テーマについて続けて参加する」例えば二ヶ月程度が三十三・一%で最も高く、

断続的な実習でなく、連続した実習を選んだ者である。

総合実習状況に関する調査結果

に関して、肉体的または精神的苦痛度に対する設問に対し、「疲れたとは思わない」が四十四・四%と過去最高の値を示している。実

習内容が「ベンキ塗り工事や軽度

の鉄骨製作工事などが多く行われてきたためもあるが、多くの学生が労働に喜びを感じているからであろう。

総合実習内容に対する興味度についての調査では、「實際的な事

なので興味をもつた」という学生

が最も多く、総合実習が実践的な

人間的なことで学んだことは何かの設問に対して、「何らかの点で入間的に学んだ」が五十五・一%、「チームにかけこんで作業できるようになった」が十三・七%であった。

一月十九日には九州大学応用力学研究所教授 中村泰治先生の「剝離フロッターのいろいろ」について特別講演があり、聴衆に多くの感銘を与えた。(建築 吉岡 小沢)



風洞・整流格子の取付



空気取り入れチャンバーフィルターの製作



空気取り入れチャンバーのガラリの取付